



老松っ子だより

学校だより 第11号
令和4年11月15日
倉敷市立老松小学校

◆◆◆読書週間（10/24～10/28）◆◆◆

読書週間の最初に、校長先生から放送朝礼で、読書のよさについての話がありました。読書をする事のよさとして、「①記憶力がよくなる。②集中力が高まる。③脳が活性化する。④心が落ち着く。」の4つを挙げました。よいことばかりで、読書のすばらしさを改めて感じます。

老松小学校では、読書週間に次のような取組をしました。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ① 図書委員による読み聞かせ（お昼の放送） | ⑥ 学級文庫の入れ替え |
| ② しおりコンテスト | ⑦ 朝読書 |
| ③ 4コマ漫画 | ⑧ 人気本ランキング |
| ④ 読書すごろく | ⑨ おはなしコラボ給食 |
| ⑤ おすすめの本紹介 | ⑩ 校長先生のお話 |



図書委員会が「楽しみながらいろいろな分類の本も読んでみよう」をめあてに、たくさんの意見を出し合い、取組を進めていきました。イベントの担当が決まると、読み聞かせの練習に励んだり、すごろくに工夫を凝らしたり、また当番でなくても進捗状況を確認に来るなど、責任感をもって仕事をする事ができていました。

また、しおりの掲示では、異学年が本を通して共通の話題で楽しんでいました。4コマ漫画は、低学年には難しいと思っていましたが、とても楽しい作品が出来上がっていました。「本の紹介」と「4コマ漫画」は、図書館前の廊下に掲示していますので、26日に来校された際に、是非ご覧いただけたらと思います。老松小学校の読書週間は終わりましたが、子供たちが選んで持ち帰った図書館の本を通して、ご家庭でも秋の夜長を楽しんでいただけたらと思います。



◆◆◆老松ふれあいフェスタ◆◆◆

11月5日（土）に3年ぶりに開催された老松ふれあいフェスタ。この日のために、夏休み前からPTA 役員の方々を中心に話し合いや準備が進められてきました。それぞれの部での準備、さらに学年部での準備等々、役割分担しながら緻密に準備を進められている姿には頭が下がる思いでした。当日は、さらに地域の方や婦人会のお店、おやじの会のお店も加わり、大盛況でした。

こうした地域や保護者の皆様に支えられての老松小学校だなあと改めて感じる事ができました。山陽新聞にその様子が掲載される予定です。期待してください。



◆◆◆ボランティアお世話になります◆◆◆

老松小学校では、学校支援ボランティアの皆様に様々な場所でお世話になっています。1年生では、秋のおもちゃを作る際に、どんぐりに穴をあけるお手伝いをしてもらいました。2年生では、九九を聞いてもらっています。また、6年生では、学芸会の衣装作りに協力してもらっています。地域のみなさまの力を借りながらの学校です。今後ともよろしくお願ひします。



◆◆◆6年生陸上記録会◆◆◆

11月9日(水)に、3年ぶりに倉敷運動公園陸上競技場で、倉敷地区学童陸上運動記録会が開催されました。走り高跳び・走り幅跳び・100m走・50m走・60mハードル走・ソフトボール投げなどの種目から一種目にエントリーし、練習を重ね、当日を迎えました。すがすがしい秋晴れのもとで、一人一人、力を発揮することができました。また、応援のマナーや態度もすばらしく、さすが老松小学校の6年生でした。

【6年生の感想より】

- 本番では、今までで一番よい記録が出ました。走るのはほんの一瞬だったけど、そのために準備してくださった方がいて記録会ができたので、感謝する気持ちも大切にしたいと思いました。
- いろいろな学校がいて、大舞台で歓声がすごい中、ずっと緊張して心臓がバクバクしていました。だけど、いざ走ってみるとパーンとその気持ちがなくなって、とても気持ちよく走れました。何より、違う学校の人とスポーツができ、触れ合えて、すごくいい機会でした。
- 私が帰ってきたとき、「〇〇速かったな。」と友達が話しかけてくれて、嬉しくなりました。友達が練習よりもよい記録が出て、喜んでいる姿は、自分のことみたいに嬉しかったです。

陸上記録会 入賞者紹介

- | | | | |
|------|-------|---------|--------|
| • 男子 | 走り幅跳び | 毛利 涉吾さん | 417 cm |
| • 男子 | 走り幅跳び | 嶋田 翔太さん | 404 cm |
| • 女子 | 走り高跳び | 樋口 瑠美さん | 115 cm |



◆◆◆子育てコーナー◆◆◆

親子の気持ちの伝え方、言わないと伝わらないし、言いすぎても伝わらないし、気持ちのすれ違いをなくすには、何が大切なのでしょう？そんな時には、「あなたは」ではなく、「わたしは」の「アイメッセージ」で発信してみてもどうでしょうか？「宿題をきちんとしていないと、お母さんは心配なの。」「人の悪口を言うなんて、お父さんは悲しい。」主語を変えるだけで、伝わり方が、変わってくると思います。ぜひお試しください。